FROM KOREA

姜信子の韓国通信

REPORT by Mrs.NOBUKO KYO

「백」에 연관되는 이야기

「百」をめぐる話

姜信子さん
フリーライター。ノンフィクション「ごく普通の在日韓国人」で朝日ジャーナル賞受賞。
熊本と韓国の交流推進のため、韓国・忠清南道庁に県職員として初めて派遣された夫とともに昨年5月下旬に渡韓。

西大田女子高等学校

忠南学生農楽競演大会（百済文化祭）

第36回百済文化祭ゲート

チュファオンマに待望の男の子が生まれた。三十八才で、既に四人の女の子の母親でもあるチュファオンマにとっては、それこそ決死の覚悟の出産だった。

名前はミンギュニ。四柱推命にのっとって一番いい名前をつけた。四人のおねえちゃんたちもチュファオンマもハルモニも「コチュ（唐辛子）をみてごらん」と、訪ねる人ごとに誇らしげに見せている。こちらでは、「男の子にはコチュがついている」というふうに言うのである。勿論、私もしっかりと見た。

十月五日が、ミンギュニの百日のお祝いだった。韓国には三神ハルモニと呼ばれる、子を授け、生まれた子を守ってくれるという神様がいる。百日の日には、その三神ハルモニにそれまで無事だったことに感謝を捧げ、今後の健やかな成長を願う。その日、ミンギュニの小さな指には、親戚たちの贈った金の指輪が五個キラキラとしていた。

この百日のお祝いは韓国の民俗的伝統的行事であるが、三、四年前から「百日祭」という新しい風俗が定着しつつあるらしい。これは大学受験生たちが創り出したおまじない的気休め的行事だ。試験日百日前にお酒を飲み（男子）、百日前から試験日までずっと銀の指輪をしている（女子）と志望校に合格できるという。

ビールやシャンペンのような泡の出るお酒は「試験勉強が水の泡になるからダメ」で、無事志望校に合格した先輩たちが注いでくれるお酒もチビチビ飲んだら「一回で入学できない」、つまり浪人することになるから、これもダメ。一気が鉄則だ。志望校の構内や高校の教室で飲むのは吉。

女の子たちは、自分たちでお金を積み立てて共同で銀の指輪を買ったり、後輩たちからプレゼントで貰ったりと、クラスの半分は銀の指輪をしているという話だ。学校付近のアクセサリー店では、銀の指輪は売り切れ状態。さらには、24金がよりいいらしいとか、金に銀を挟み込んだのがいいとか、あるいは一日一個ずつ百個のチョコレートを食べるのも効くらしいとか、次から次へと新しい説が生まれてくる。

「高三牛乳」などという商品まで登場している韓国。恐らく日本よりずっと厳しい受験をのりきるために、受験生も知恵を絞っている。その一方で、熱心な母親達もまた、十二月半ばの試験に向けて、教会や寺院で百日間の祈祷を捧げている。

さて、「百」にまつわる話にちなんで、私も銀の指輪に願をかけてみようかと思う。百済ゆかりの地のここ忠清南道で、帰国するまでに友達百人できますように！

注（1）チュファオンマ（チュファのおかあさん）
注（2）四柱推命　昔から中国で信じられてきた占術　年・月・日・時間の4本の柱
注（3）ハルモニ（おばあさん）

HOT LINE

先日、韓国の女子学生二人が、実家にホームステイしました。熊本国際青少年音楽フェスティバルに出演するために来熊した大田女声合唱団のメンバーです。わずか、数日のことながら、異国人を受け入れるのに難色を示していた母。うまく対応できるかどうか心配していたのですが、とても気だての良いお嬢さん達で、帰る時は、涙、涙の別れになりました。

しばらくして、便りが届きました。浴衣姿の彼女達二人と、チマチョゴリに身を包んだ母の写真も同封されていました。「私にもわかるように、日本語で書いてくれたよ」と嬉しそうに目を通す母を見て、私まで幸せな気分になりました。

皆さんも、ホームステイのホストファミリーを経験されませんか。

菊陽町　熊本のチング（＝友人）

発表!! 平成2年度第一回県民提案

「地域福祉におけるボランティア活動」というテーマで募集した県民提案（応募総数四十六編）の審査結果がでました。

〈受賞者〉

●知事賞該当無し

●優秀賞（三名）

苗床俊二さん（湯前町）
「地域福祉を担う福祉指導員」

金子宗晴さん（熊本市）
「『ふれあい県民ちょっとお互いボランティア日本一』を目指した基盤づくりの五つの提案」

本田美都さん（熊本市）
「地域福祉におけるボランティア活動」

●佳作（九編十名）

岩村充久さん（熊本市）
白井昭三さん（熊本市）
丸山隆司さん（菊池市）
外田辰幸さん（八代市）
橋本一雄さん（熊本市）
共同提案
泉　広道さん（西合志町）
東　敬一さん（熊本市）
坂本良子さん（植木町）
後藤秀昭さん（熊本市）
北島照明さん（松橋町）

さわやか〜〜ぜ

編集後記

「オゾン層復元に百年」、最近よくこのように言われています。緊迫した状況になりつつある地球環境。このままで後世にどれだけの環境を引き継げるのでしょうか。こんな中、人を愛し、自然を愛し、地球をこよなく愛し、身近な所から環境問題に取り組まれている多くの実践家に出会うことができました。人、自然への気配りにあふれたその言葉に感動し、今すぐ行動を起こすべき現代人の責務を痛感しました。環境問題を考えることは、すなわち個人の生き方を問うことではないでしょうか。

●表紙イラスト　阿津坂雅弘

表紙のことば

今月号は冬景色がテーマで、無彩色をかなり意識して制作致しました。

「風」の表紙のデザインを担当して、早くも半年が過ぎました。その間いろいろな方々からの御意見や励ましの言葉をたくさんいただき、恐縮したり感激したり致しております。

●シーン'90 撮影のことば

長野良市

太陽が上るにつれ、校舎の外れにあるモダンなホテルは輝きはじめた。ロビーに並ぶ机や椅子、客室に整然と並ぶLLの機械。ただ、ただ淡しい教室でした。

CONTENTS

1-2　風のコンパス
3-8　特集 〜環境〜
9-10　トーク&トーク 〜下川富士子さん〜
11-12　熊本人物水路 〜植木学校の人々 〜
13-14　シーン'90
15-16　風を探して 〜ママさん探訪記 〜
17-18　熊本六街道 〜人吉街道と球磨川水運 〜
19-20　くまもと北から南から 〜御船町・田浦町 〜
21-22　くまもと情報BOX 〜環境創造MINAMATAアクションプログラム・生活排水処理施設の整備〜
23-24　風の告知板
25　姜信子の韓国通信
26　HOT LINE・さわやか〜ぜ

お便り募集

みなさんの身近な情報（出来事・季節の変化・風景・感想など）を200〜400字程度にまとめてお送りください。（採用された方には"風テレホンカード"をプレゼント）

●あて先
〒862 熊本市水前寺6丁目18-1
熊本県広報課「くまもとの風」係
☎(096)382-9780

たくさんのお便りをお待ちしています。

愛読者募集

県では、県政広報紙KAZE（くまもとの風）の愛読者を募集しています。
「くまもとの風」は、くまもとの新しい動きやユニークな人、県下各地の催物などを、写真やイラストを織り混ぜてお届けする広報誌です。あなたも、この機会に「くまもとの風」で素敵な出会いを体験してみませんか。

■発行／偶数月発行　年6回　■郵送料として／1,500円（郵便切手でお願いします。）
■お申し込みは／〒862　熊本市水前寺6丁目18番1号　熊本県広報課「くまもとの風」係